

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

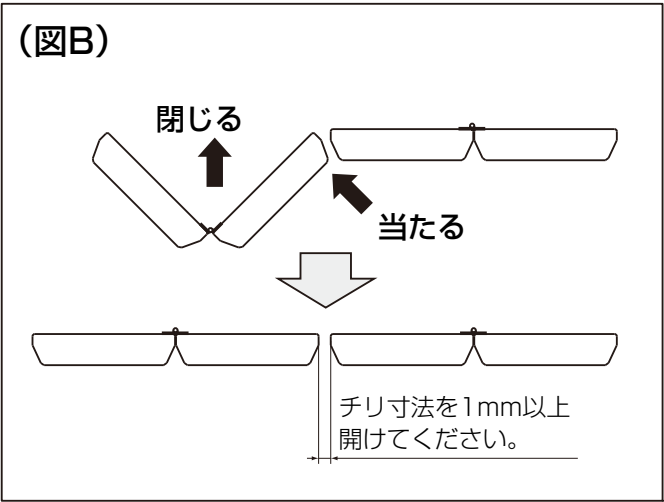
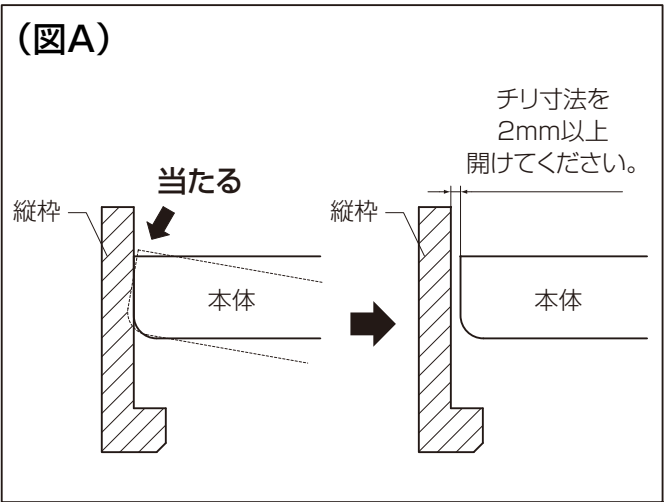
- 本体が枠から外れやすくなり、ケガの原因となりますので、下記事項をお守りください。
 - ・本体を吊込んだ後、本体上下軸ピボットの軸がピボット受けに納まっていることを必ず確認してください。
 - ・建付け調整後、上下のピボット受けの位置調整ボルトが締付けられていることを確認してください。
 - ・本体が水平に取付いているか確認してください。
 - ・本体の開閉がスムーズに行えて、開閉が重くないことを確認してください。

■取付け上のおお願い

- 本体を閉める際は、本体の折曲がり部分に手を挟まないようにしてください。
- 故障の原因となりますので、下記事項をお守りください。
 - ・本体の吊元側は、縦枠よりチリ寸法を2mm以上あけてください。（図A）
 - ・本体の戸先側同士は、チリ寸法を1mm以上あけてください。（図B）
 - ・枠と本体にねじれがないか確認してください。
 - ・本体の開閉時に異常な音が発生していないことを確認してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、指定ねじを使用してください。
他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときには必ず接着剤（現場手配）を併用してください。
かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品は下荷重方式のため、床面で重量を受けますので、本体重量に耐える床面仕上げにしてください。（表1）
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 運搬・加工の際は、キズ付けないよう丁寧に取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木には合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむをえず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。

■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場所
 - ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

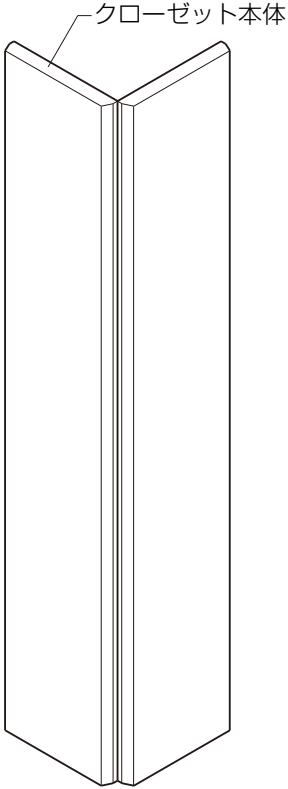
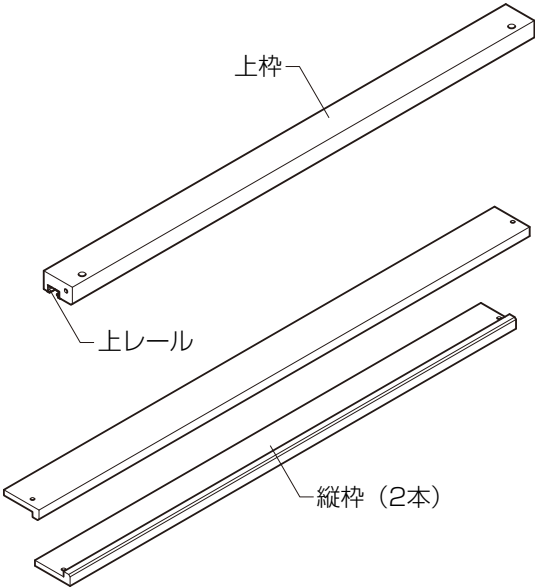
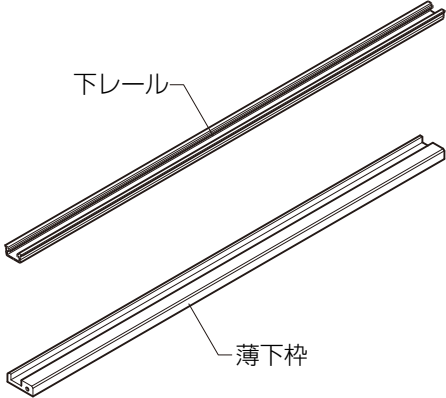


(表1)

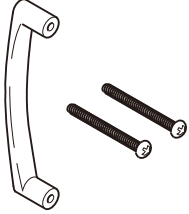
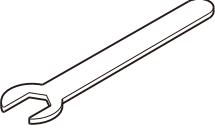
間口	本体重量
3尺間口	20kg
4.5尺間口	40kg
6尺間口	50kg

■部品・部材一覧表

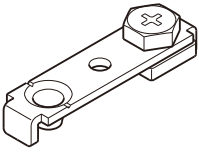
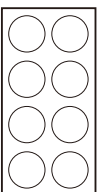
■部材一覧表

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
		

■本体用部品セット一覧表

	把手セット (ねじ付)	軸ピボット (上)	軸ピボット (下)	ガイドピボット(上)・(下)	調整スパナ
					
全機種	1	1	1	2	1

■枠用部品セット一覧表

	皿タッピンねじ φ4×50 (上枠躯体取付け用)	下部ピボット受け	皿小ねじ M4×50 (上枠・縦枠組立て用)	穴埋めシールシート
				
0720・0723	2	1	2	1
1220・1223	4	2	2	1
1620・1623	5	2	2	1

■下枠用部品セット一覧表

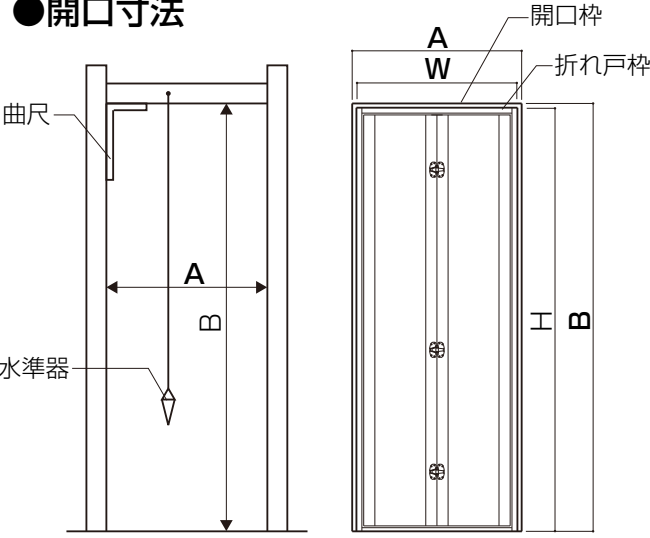
	皿木ねじφ3.5×20 (枠取付け用)	皿小ねじ M4×50 (上枠・縦枠組立て用)
		
薄下枠W07	2	2
薄下枠W12～W16	3	2

■開口部の確認

※開口部の水平・垂直を確認してください。
※開口部寸法が右記寸法になっていることを確認してください。

開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

●開口寸法

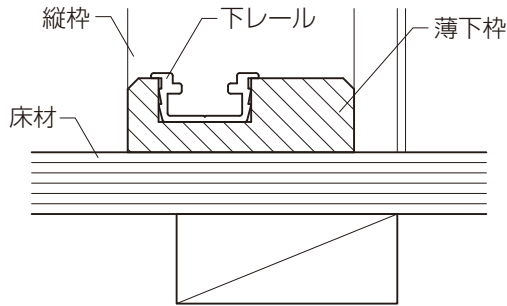


■床の張り方

1 床張り位置

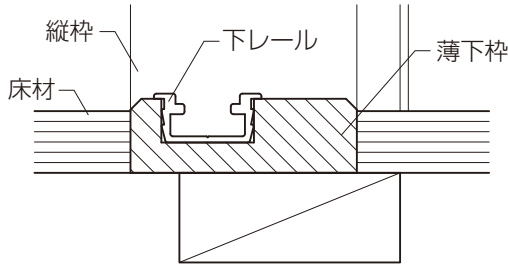
〔床載せ納まりの場合〕

- 床材を張ってから枠を取付けてください。
※床材をあけて張る必要はありません。



〔床後張り(枠先付け)の場合〕

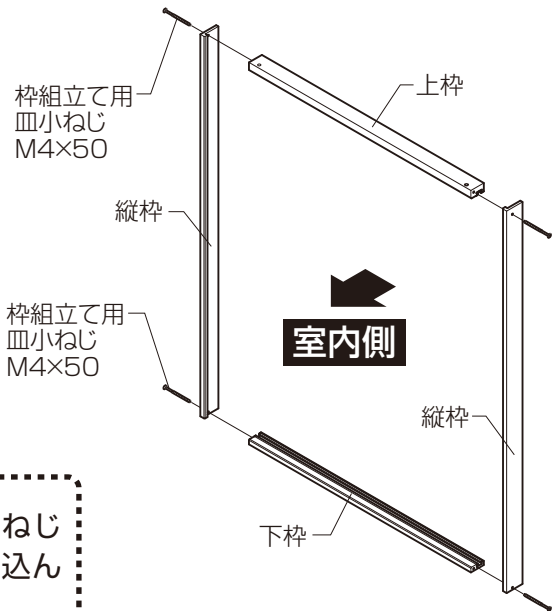
- 枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。



■取付け順序

1 枠の組立て

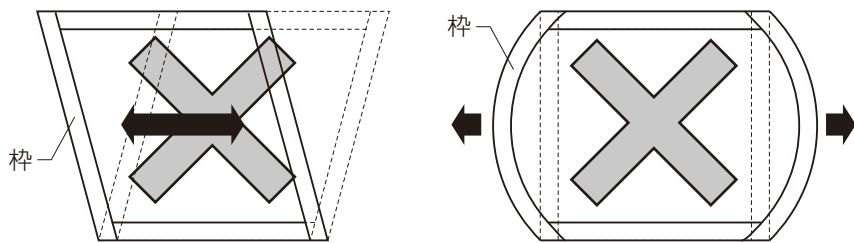
- 下図のように各部材を組合せ、枠組立て用皿小ねじM4×50で固定します。



●枠組立て上のお願
※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。

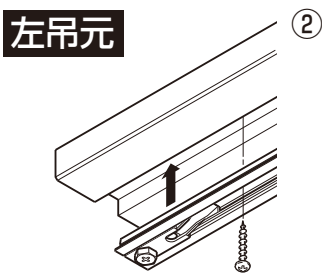
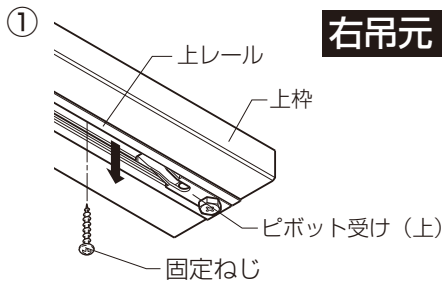
●枠組立て上のお願

- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。



●お願い

- W07サイズの上枠は、右吊元仕様でピボット受け(上)が上レール右側に付いています。左吊元にする場合は、①上レール両端の固定ねじを外して上レールを外し、②上レールを左右逆にして付け直してください。



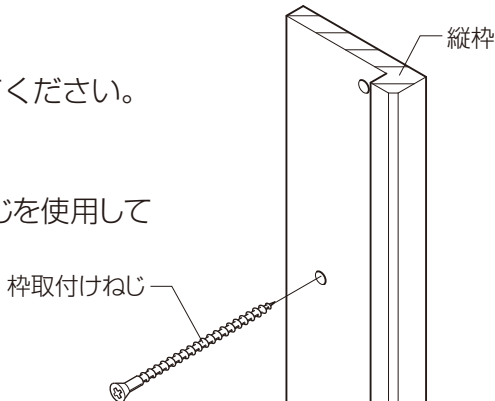
- 上枠を取付ける際、水平・垂直を必ず確認してください。本体開閉不具合の原因となります。

2 枠の取付け

- 組立てた枠を開口部に入れます。
※上枠、下枠は同梱のねじで固定してください。
上枠：皿タッピンねじφ4×50
下枠：皿木ねじφ3.5×20
※縦枠は、現場手配又は有償部品のねじを使用してください。

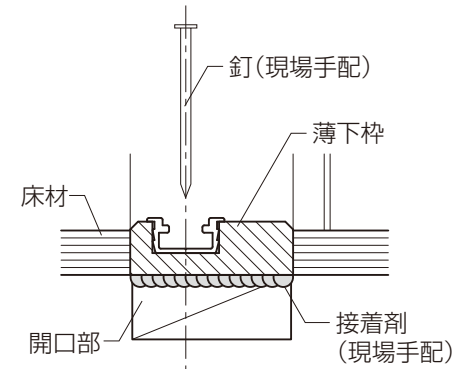
●指定ねじ

非木造	テクスねじφ4×45
木 造	木ねじφ3.8×50



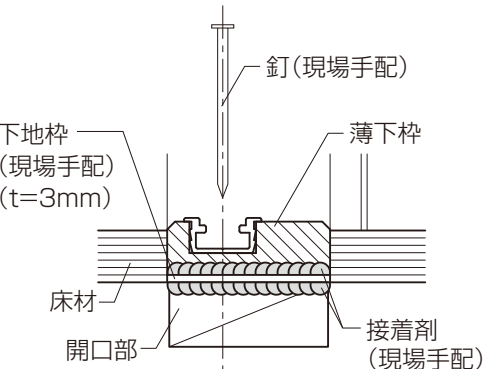
●床材厚さ12mm

- ※必ず薄下枠に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



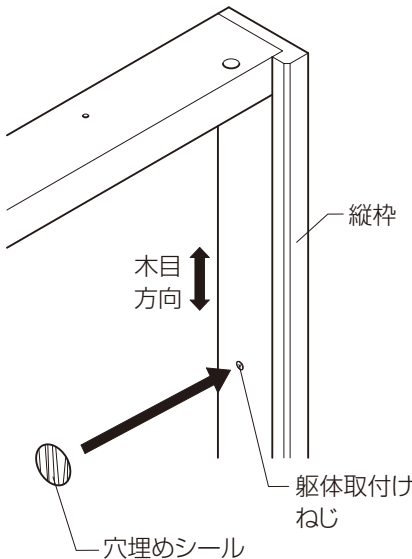
●床材厚さ15mm

- ※必ず薄下枠と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。

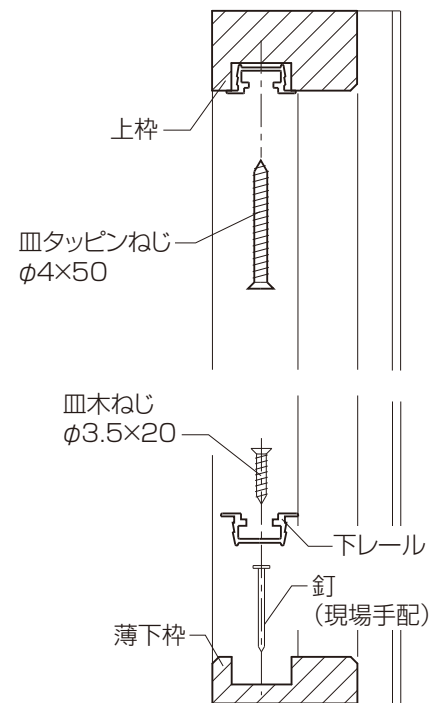


【穴埋めシールの使用方法】

- 縦枠を躯体に取付けるねじ頭部が枠の色と異なります。
気になる場合に使用してください。
下図のように、穴埋めシールの木目方向を合せて、躯体取付けねじ頭部に貼ってください。



- 上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。その際、レールも合わせて固定します。

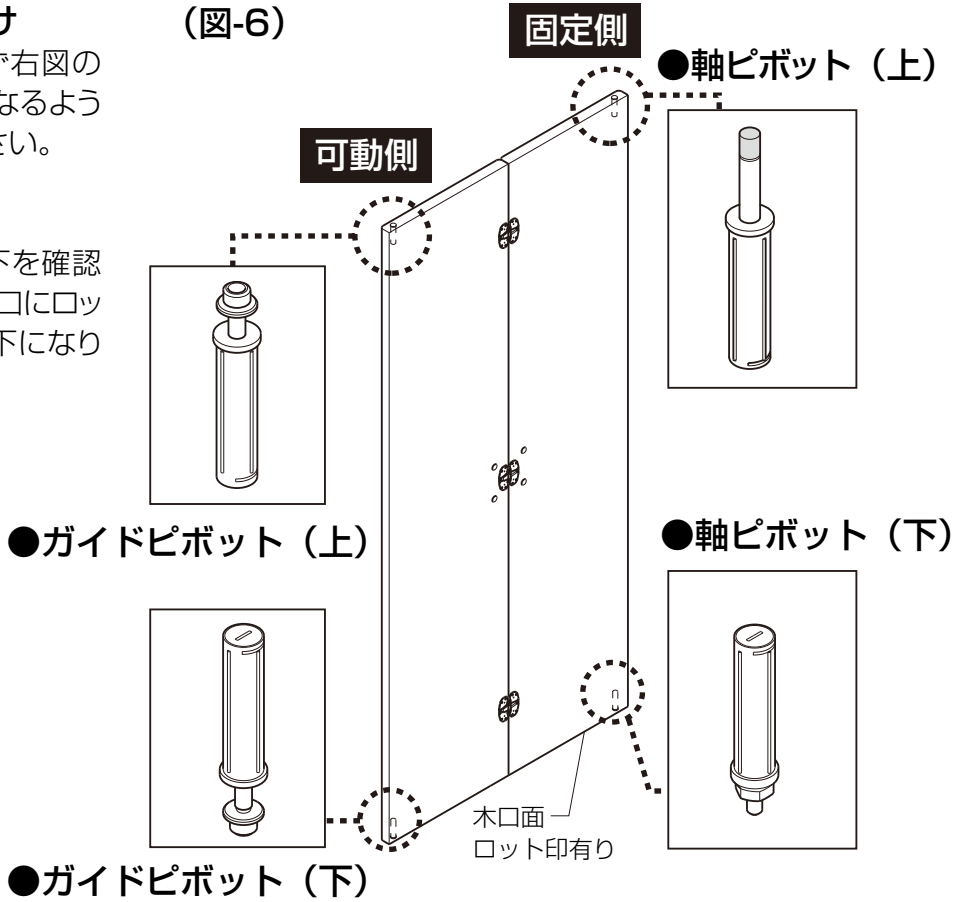


■本体の吊込み

■ピボットの取付け

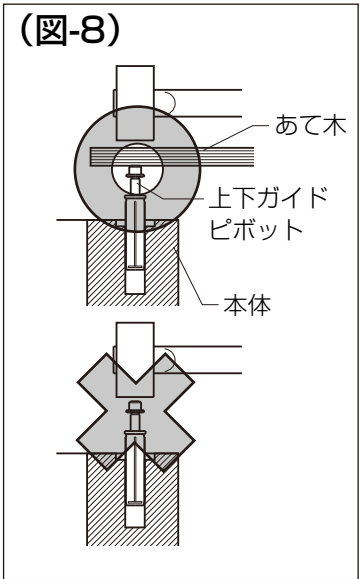
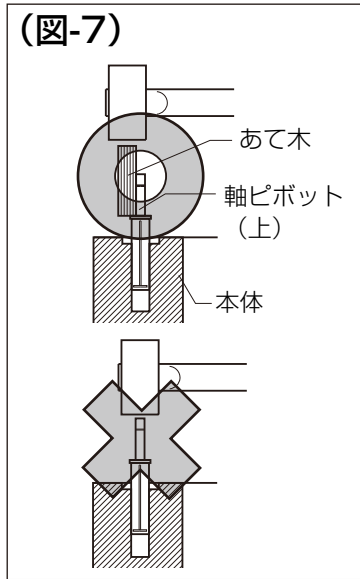
注1)ピボットは、必ず右図のような組合せになるように取付けてください。
(図-6)

注2)必ず本体の上下を確認してください。木口にロット印がある方が下になります。



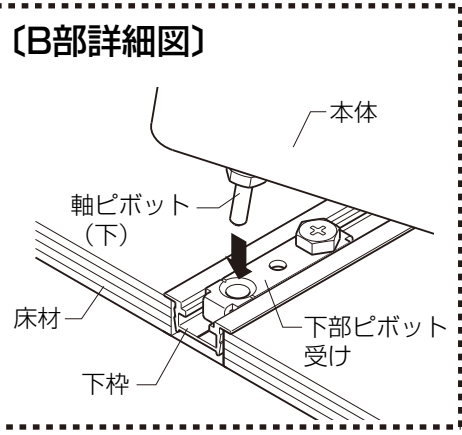
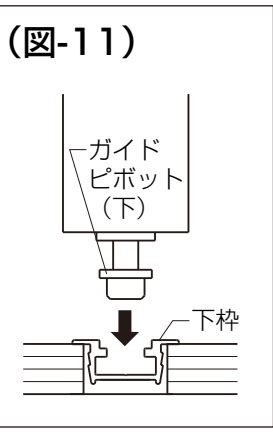
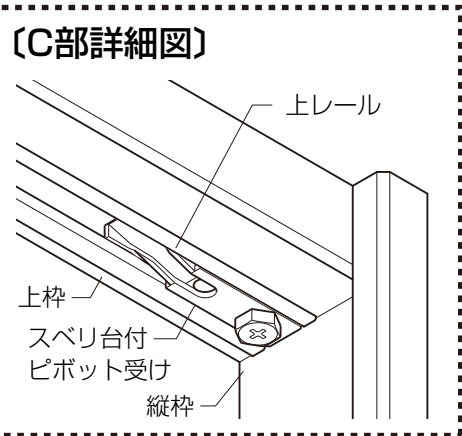
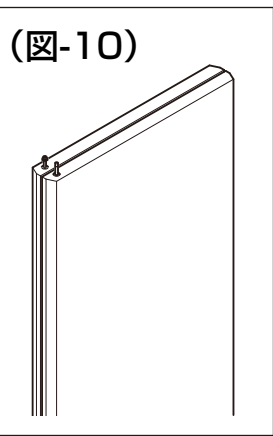
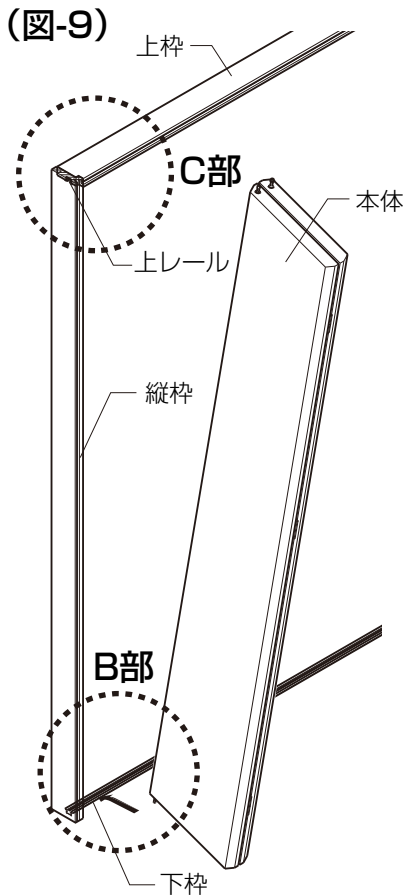
①軸ピボット (上) を本体の取付け穴に差し込みます。
※取付ける際は、下図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図-7)

②ガイドピボット (上・下) および軸ピボット (下) を本体の取付け穴に差し込みます。
※取付ける際は、下図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。(図-8)

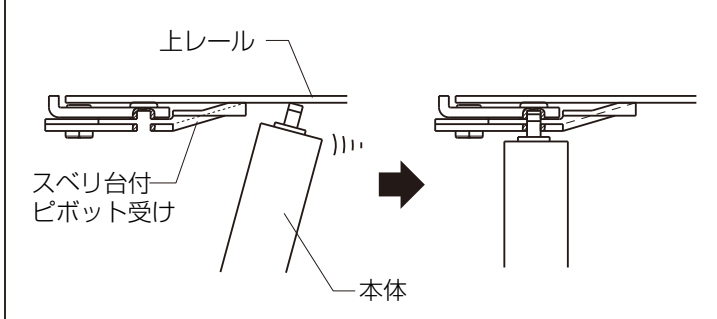


③本体を吊込みます。(図-9)

- 1.図-10のように本体をたたんだ状態でガイドピボット (下) を下枠の溝に差し込みます。(図-11)
- 2.下枠の下部ピボット受けに軸ピボット (下) を差し込みます。(B部詳細図)
- 3.軸ピボット (上) とガイドピボット (上) が上レールの溝に入るように本体を立てます。
- 4.軸ピボット (上) がスベリ台付ピボット受けにはまる(『カチッ』と音がする)まで本体を立てます。(図-12)
- 5.もう片方の本体も同じ手順で吊込んでください。



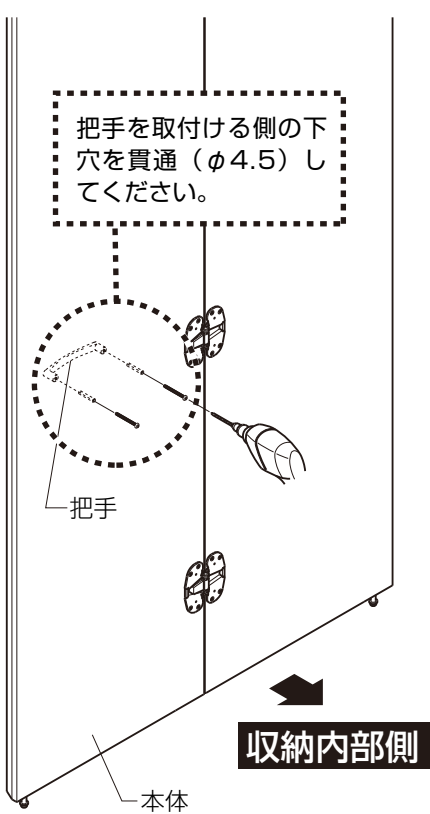
■本体取付け方法 (図-12)



④把手を取付けます。

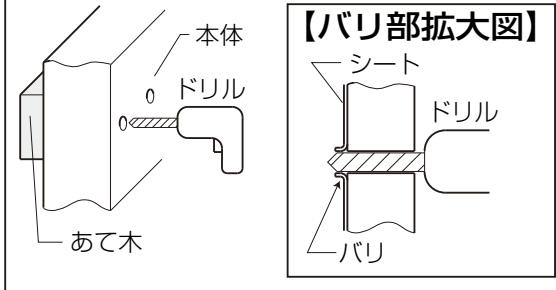
※2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。
把手を取付ける側の本体の下穴を貫通 (φ4.5) してください。(図-13)

(図-13)



把手取付け時のお願い

※把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ずあて木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



■建付け調整

本体の段違いおよび左右のチリを調整します。

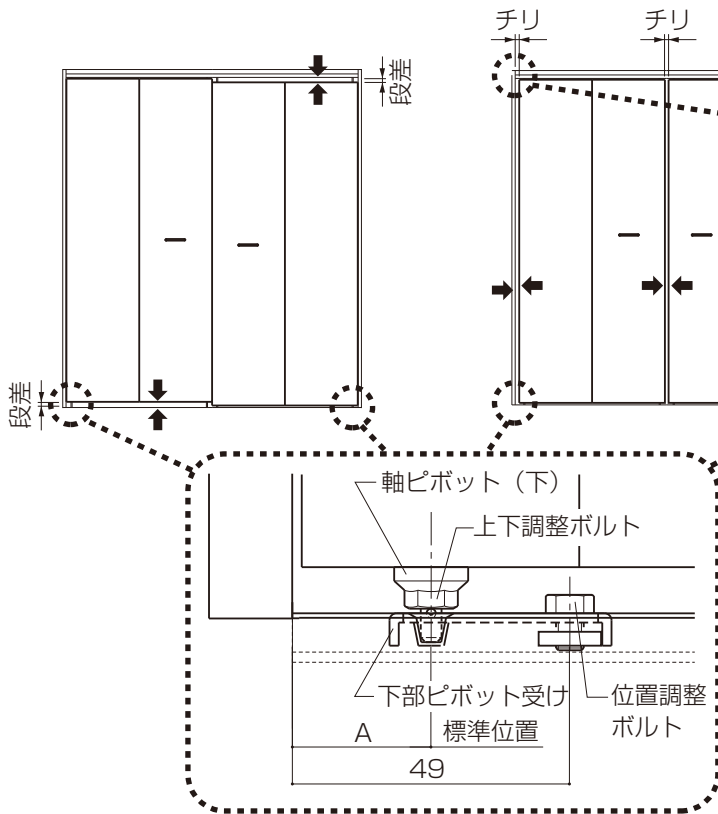
〈段違い（上・下）の調整〉

●本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合

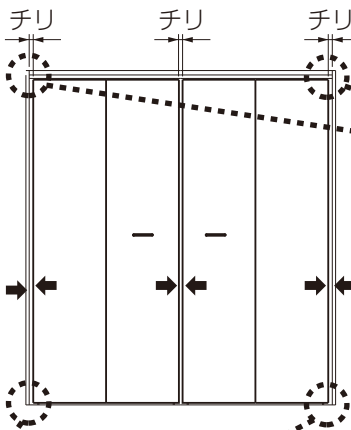
※軸ピボット（下）の上・下調整ボルトを回して調整します。

※上下調整量 薄下枠：±2mm 埋込下枠：±3mm（図-14）

（図-14）



（図-15）



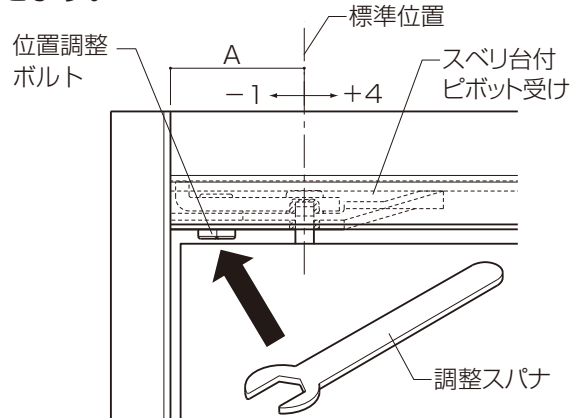
〈チリ（左・右）の調整〉

●図-15のように左右のチリが大きい場合

※上・下のピボット受けの位置調整ボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。（スベリ台付ピボット受けの左右調整量+4、-1mm）

注）調整完了後、ピボット受けの位置調整ボルトを同梱の調整スパナで本固定してください。（図-15）

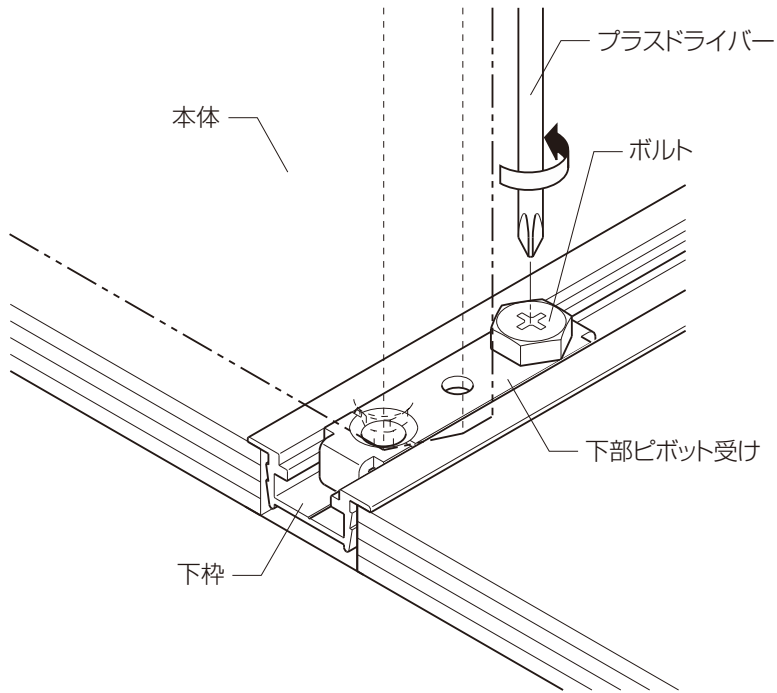
※調整スパナで位置調整ボルトをゆるめて移動させます。



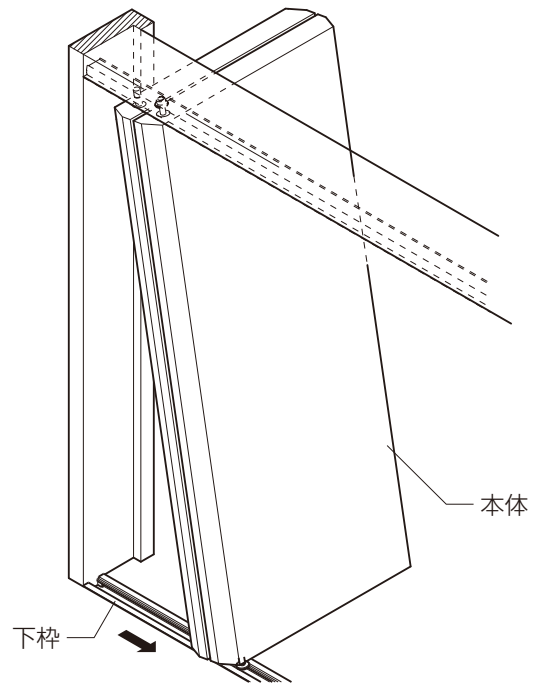
	A寸法
W12、16	32
W07	31.5

■本体の外し方

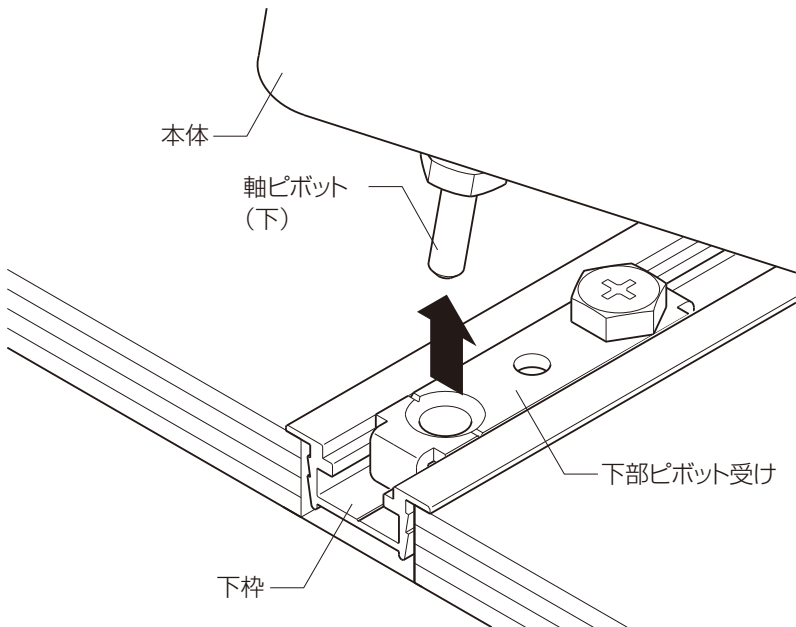
①下部ピボット受けのボルトをゆるめます。



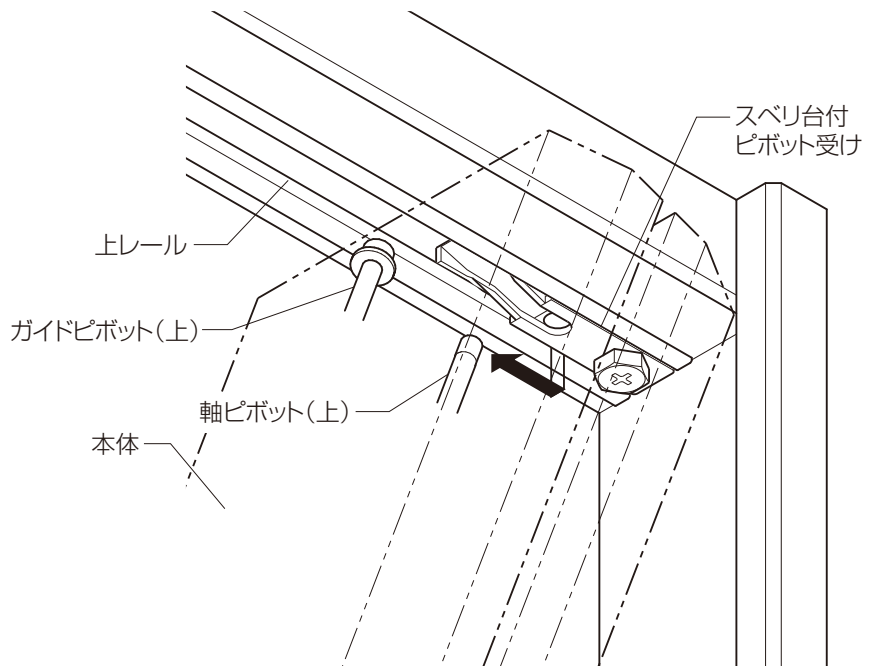
②本体を2枚そろえて、本体の下方をゆっくりとズラして傾けます。



③本体を持ち上げ、軸ピボット（下）を下部ピボット受けから外します。

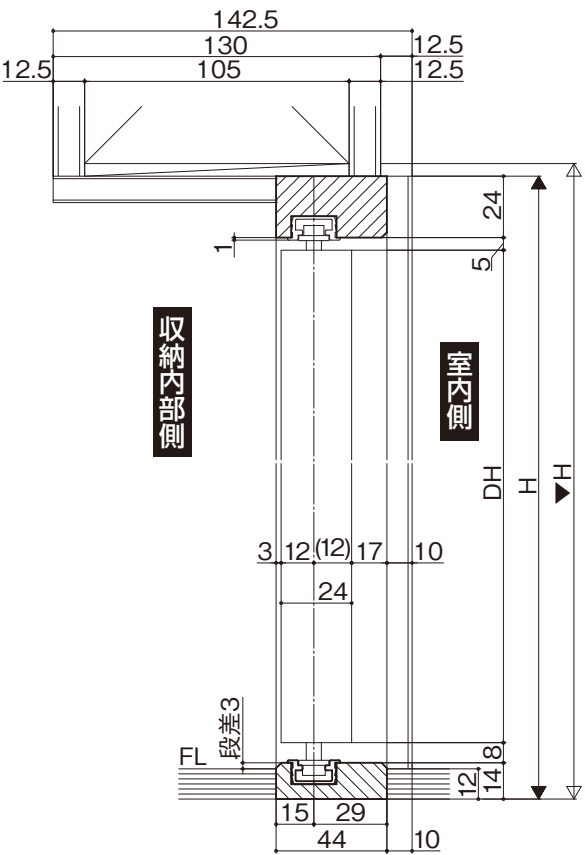


④さらに本体を傾け、ピボット（上）を上レール溝から外します。



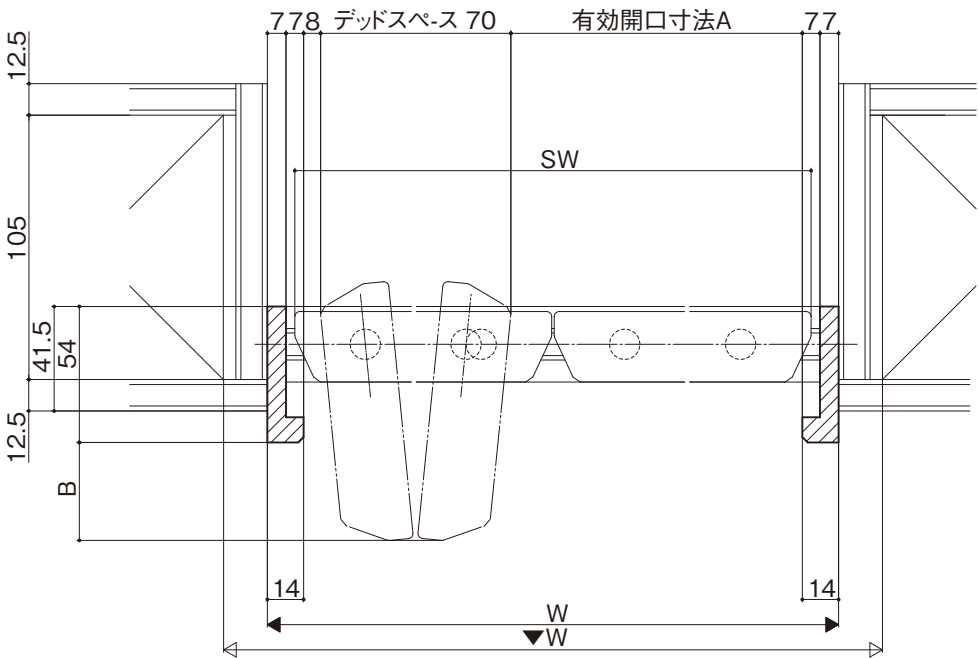
■納まり図

縦断面図



基本 寸法 (mm)	W呼称	07	12	16
	W(SW)	714(693)	1163(570)	1623(800)
	H呼称	175	20	23
	H(DH)	1755(1704)	2035(1984)	2318(2267)

横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W07(714)	608	279
W12(1163)	973	217.5
W16(1623)	1433	332.5